

山上諸堂



清龍権現堂 妙見宮



天満宮



開山堂



朝日観音堂

清龍権現堂妙見宮 (せいりゅうごんげんどうみょうけんぐう) 享保 17 年 (1732) 建立 修理(1788 年 1858 年)

光明堂右方に位置する成田山の鎮守で、地主妙見と清瀧権現をお祀りしている。

毎年 1 月・5 月・9 月のそれぞれ 8 日に大般若会が行われる。人法繁昌・国家豊楽・災難消除を祈願し、僧によって仏教の思想に基づいた仏陀の説法を記録した「大般若経」六百巻を、転読という方法で流し読み、世界平和や五穀豊穰を祈祷する行事
屋根の下は極彩色の雲水紋は近くに寄らないと分からない。

清瀧権現 真言密教を守護する女神「妙見」とは「優れた視力」の意で、善悪や真理をよく見通す者ということである

天満宮 「明治 20 年」(1887) 再建

両サイドに白梅と紅梅 菅原道真公 (学問の神様)

1 月 24 と 25 日の 2 日間にわたり、1 年間で最初の天神様のご縁日として、例年成田山では「初天神」の法楽が執り行われます。 「菅原道真は 903 年 2 月 25 日遷化」

この 2 日間天満宮は開扉され学問の神様である菅原道真公の像を直接見ることが出来ます。また、浄筆 (じょうひつ) といって、成田山の御護摩札に名前を記すのに用いられた筆を頂くことができます。浄筆は、書道の上達や学業成就のお守りとしてご利益があります。

開山堂 「昭和 13」(1938) 建立。成田山開基 1000 年記念事業として建立された総檜作りの建物。

開山堂は開山寛朝大僧正のご尊像を奉安するお堂です。また堂内には歴代先師の御影 (ごえい) が掲げられている。平成 10 年 (1998 年) の成田山開基 1060 年・開山寛朝大僧正 1000 年御遠忌の記念として格天井に松尾榮画伯により、華麗なる百華図が描かれた。

仏典にでてくる 100 種の植物画が描かれ、荘厳 (しょうごん) されています。

寛朝大僧正 生年：延喜 16 (916) 没年：長徳 4.6.12 (998.7.13)

お堂の形は 940 年頃に寛朝大僧正が公津ヶ原に設けた仮堂を模したものです。

覚鑊忌法要 (かくぼんきほうよう)

毎年 1 月 12 日 / 開山堂にて法要が厳修される。 開山記大法会 (下記写真参照)

真言宗中興の祖と仰がれる、興教大師 (覚鑊上人) の命日法要

開山忌大法会

毎年 7 月 12 日に厳修 成田山を開山された寛朝大僧正のご命日

朝日観音堂 「慶応 3 年」(1867) 建立 朝日観音菩薩を本尊とする。



開山忌大法会



成田山境内絵図



利剣と両童子

境内絵図 天保4年3月(1833年)奉納(江戸時代) 雨の日は(濡れていると)よく見える

絵図 安清(やすずみ) 刻 暁雲斎

絵図には仁王門の提灯、本堂(現光明堂)、光明堂(現薬師堂)、三重塔等が描かれている。

利 剣 碑

向かって右に矜伽羅童子、左に制陀迦童子 境内や公園に沢山奉納されている

奥 の 院

光明堂の後方にある洞窟で、周囲を石畳で囲まれています。1.2m 四方の入口上方には石川照勤上人の筆となる「奥の院」の石彫りの額面がはめ込まれています。

また、左側には延元12年(1336年)鎌倉時代、右側には明德5年(1394年)室町時代という銘のある古板碑があり、それぞれ千葉県文化財に指定されています。

洞窟の奥には幅2.5m、奥行1.75mの窟があり、その中には成田山の御本尊不動明王の本地仏である大日如来を安置しています。通常こちらを参拝するには扉の外からのみとなりますが、7月の成田祇園会期間中は、特別に開扉して祭典を行い、一般の方でも参拝する事ができます。古くは「覚皇窟」と呼ばれていた奥の院は、幾度かの改修を経て、昭和39年(1964年)に現在の位置に移されました。 **「祇園会と祇園祭の期間開扉されます」**

奥 の 院

左から ^{はくさんみょうじん}白山明神 ^{こんびらだいごんげん}金毘羅大権現 ^{いまみやじんじや}今宮神社



奥の院入り口



光輪閣の所から移設

歴代本堂の移動

- 薬師堂 明暦の本堂(1655)→光明堂 (1700 山上) →薬師堂 (1855 飛び地)
- 光明堂 元禄の本堂(1701) →明王堂*光明堂(1856 山上)→光明堂 (1964 更に後方移動)
- 釈迦堂 安政の本堂(1858) →釈迦堂 (1964) (大本堂左に曳き屋)
- 大本堂 昭和の本堂(1968)

山上諸堂の大移動

- 額 堂 昭和38年9月移築 (1963)
- 開山堂 昭和39年1月移築 (1964)
- 清龍権現堂 妙見宮 昭和39年1月移築 (1964)